

提督「潮が現実（リアル）にやってきた？」

sin—shin

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

もしも潮が現実世界にやってきたら？というお話です

目次

提督「潮が現実（リアル）にやってきた？」

1

提督「潮が現実（リアル）にやっってきた？」

—提督の家—

提督「あー疲れたー…最後の講義長すぎだろーったく…」

提督「とりあえず皆を遠征に行かせて演習やらせねーとな…」パソコンパカッ

PCへか ん こ れ ♡

潮『特型駆逐艦……綾波型の「潮」です。もう下がってよろしいでしょうか……』

提督「ただいま潮。さてさてまずは遠征班の補給を…」カチカチッ

提督「ん…？何か重いな…別に電子レンジも使ってねーのに…」カチカチッ

PCへピカーッ!!

提督「うおっ!?!なにになになにに!?!」ガタタッ

PCへガタガタガタ

提督「んひひいいいい!!?!?」

??「痛っ!?!」ドサッ

提督「あ痛あはっ!?!」ゴキッ

提督「痛い痛い痛い!!踏んでる踏んでる!!」パシパシ

?? 「あつ、すみませつ……」

?? 「てい……とく……？」

提督 「つたく何だよ宇宙人か？ 一体俺に何のよ……う……」

提督 「うし……お……？」

潮 「提督……ていとくーっ！！」ギュー

提督 「うおあはっ!? ちよちよちよつと待つて！」

提督 「一体全体どういうことだ!? PCが光りだしたと思つたら……」

潮 「提督……提督……」スリスリ

提督 「潮が現実（リアル）にやってきた!?」

提督 「あ、あの、とりあえず1回離れましょう？」

潮 「あつ、す、すみません……」

提督 「と、とりあえず自己紹介をしてもらえろ？」

潮 「あ、はい……。ええと、綾波型10番艦の潮です。レイテ沖海軍などの激戦を潜り抜け、運命のあの日、横須賀で御役目を終えるまで戦い抜きました。

あ、あの……沈めた敵艦の皆さんも……ホントはお助けしたいのです。ホントです！」
提督 「まるでwikiから抜き取ってきたみたいだな……」

提督「そういうのじゃないんだけど……まあいいか。お、俺のことはわかる？」

潮「はい。○○提督です」

提督「お、おお……。所属は？」

潮「ラバウル基地からトラック泊地に移りました」

提督「今の練度は？」

潮「確か154です」

提督「……次に練度の高い艦娘は？また、その練度はいくつ？」

潮「大鷹さんで、149だったはずです」

提督「……わかった。お前、本当に俺の鎮守府の潮なんだな……」

潮「はい。……提督、大丈夫ですか？お疲れのようですが……」

提督「ああ……うん……まだちよつと頭の整理が出来てないだけ」

潮「そうですか……」

提督「……潮、ちよつと待ってて」スタスタ

潮「？ わかりました」

提督「……」ガラガラ

提督「すーっ……」

提督「俺はどこのエロゲ主人公だ……」

!!!!???

潮「ビクッ

提督「ふう…お待たせ。これでスッキリしたよ」

潮「あ、いえ…大丈夫です」

提督「あ、最後にひとついいか？」

潮「はい？」

提督「どうやってこっちに来たんだ？」

潮「うーん…会いたいなーって思ったからですかね」

提督「そんな簡単に出れるもんなのか…」

潮「…私、」

提督「ん？」

潮「ずっと…提督に会いたかったんです。画面越しにいつも私達を励ましてくれる貴方に…」

提督『大破だど!? OK 撤退い!』

提督『カットインだ!! ないすう!!』

提督『皆イベントお疲れ様ー! ゆっくり入渠しろよ!』

潮「私……いえ、私達は、貴方がいてくれたからこそここまで来れました。だから貴方に感謝を伝えたくて……提督？」

提督「10秒待つて……」プルプル

提督（やべー泣きそう……）

提督「……とりあえず服を何とかしないとな」

潮「え？どうしてですか？」

提督「格好が世間的にアウトなんだよ」

潮「はあ……？」

潮「……おおきい、ですね」

提督（……でかいな）

潮「あの……提督？」

提督「……はっ、すまんすまん。ぼーっとしてた」

提督「とりあえず今はそれを着といてくれ。つと、もうこんな時間か。飯作るけど食うか？」

潮「あ、はい。せっかくなのでいただきます」

提督「おk。んじや3分待つてな」

潮「はい。……はい？」

提督「ん？どうかしたか？」

潮「提督……もしかして即席麺ですか？」

提督「そうだけど……」

潮「そんなのダメです！栄養が偏ります！」

提督「菘いみみたいなこと言うのな。つつても男の一人暮らしはほぼ自炊なんかしないぜ？」

潮「呆れた……ちよつと台所借りますね」

提督「お、おい？」

潮「提督は静かに待つててください」

提督「いやでも……」

潮「待つてててください」

提督「あつはい……」（怖ええ!!）

潮「冷蔵庫の中はつと……意外と食材がある……」

提督（……ウチの潮つて例外だつたんだな……）

潮「はい、どうぞ！簡単なものですが召し上がってください！」

提督「おおつ！じゃあ早速、いただきます！」

提督「モグモグ…うん！美味しい！」

潮「ほっ…よかった」

提督「つてかあれなんだな」

潮「？」

提督「やつぱり潮、料理できたんだな」

潮「え、ええ。それなりですが…何か変ですか？」

提督「いんや別に。ただ、そういう描写がなかったからさ」

潮「ああ…。確かにむこうではバレンタインの時ぐらいしか料理してませんでしたね」

提督「そうそう。まあクッキーが焼けるんだから料理はある程度できるとは思ってたけどさ」

潮「そうですか…あ、そうだ提督」

提督「ん？」

潮「いくつか潮からも質問してもいいですか？」

提督「別にいいけど…お前は食わないの？」

潮「実は…むこうで食べてきたので平気なんです」

提督「そ、そうか。（じゃあなんで最初食べようとしたんだ…？）…ちなみに間宮？」

潮「いえ、鳳翔さんのところで食べてきました」

提督「鳳翔の店って本当にあるんだ」

潮「ええ。昼はカフェで、夜は居酒屋です」

提督「ほほう。一度行ってみたいな…つと悪い脱線したな。んで質問って？」

潮「あ、はい。提督が本当に潮の提督かどうかの確認です」

提督「ああね…。確かに俺が一方的に聞いてたもんな」

潮「正直、やる意味はあんまりないんですけどね」

提督「ないんだ…」

潮「はい。むこうから貴方のことは見てましたから」

潮「ただ、念には念をと」

提督「おk。なんでも来やがれ」

潮「はい。じゃあまず…提督が着任した日と、初期艦は誰ですか？」

提督「詳しくは覚えてないが2016年9月の前半に着任した。アーケード含めるんなら7月の後半だ。初期艦はサミイ…五月雨だ」

潮「その通りですね。じゃあ次…司令部Lvは？」

提督「109。120までの道のりは長いな」

潮「そうですね。じゃあ次は…」

潮「……潮と提督が最初に会った場所、馴れ初めをお願いします」

提督「…本人の前で言うの？」

潮「たまに喋りかけてたじゃないですか」

提督「いやまあ…うん…」

潮「早く」

提督「……最初に会ったのはゲーセンのUFOキャッチャー。『潮 準備中』フィギュアが最初だ。CLANNADに出てくるキャラと同名だから親近感も湧いて、艦これをやってた兄貴にプレゼントしようと思った」

提督「その頃の俺は艦これに興味がなかったけど、お前を見てるうちにやりたくなつた」

潮「……」

提督「フィギュアじゃなくて、動いてるお前に会いたい。一緒に戦いたい。そう思つて俺は艦これ始めた」

提督「今思えば一目惚れだったのかもな。まあそういうわけで……潮？どうした？」

潮「あ、いえ……やっぱり直接聞くのは恥ずかしくて／／／」

提督「お前が言わせたんだろ……まったく、次の質問は？」

潮「あ、はい……えっとじゃあ、私達がケツコンしたのはいつですか？」

提督「ブラウザ版は2017年3月14日午後4時で、アーケード版は2018年8月3日3時半。プロポーズの言葉は……」

潮「そ、そこまで言わなくても大丈夫です！」

提督「そう？ならいいんだけど」

潮「……次で最後です」

潮「ウチの艦隊に見られる特徴を」

提督「俺が見てない時にとんでもない戦果を上げてくる。基地航空隊、支援艦隊なし

で欧州棲姫が昼戦大破とか」

提督「あんだだけボロクソにやられたフランスパン……もとい仏棲姫に、ヒトミのみ中破で他はほぼ無傷とか。ザラとかLv10ぐらいだったんだけどなあ」

提督「まあどれも難易度丙だし、ありえることなのかもしれないがな。……まあそんなとこ」

潮「正解です。ちなみに理由聞きたいですか？」

提督「お、是非お願い」

潮「皆さんの気分です」

提督「……………」

潮「…まあ、こんなところですね」

提督「そうか。それで俺は疑いが晴れたのか？」

潮「ええ。貴方は紛れもなく潮たちの提督です。分かってましたが」

提督「ふつ。まあ確認することも大事だよ」

提督「さて、と。ご馳走でした」パシッ

潮「そういえば食事中でしたね。すっかり忘れてました」

提督「そういう描写が全くなかったからしょうがない」

潮「提督、メタ発言は慎んでください」

提督「お前が現実にいる時点でメタもクソもないと思うんだけどな。そんなことより

片付けないと」カチャカチャ

潮「あ、手伝いますよ」

提督「いやいや、作ってもらったんだから片付けは自分でやるよ」

潮「とか言って、洗うの2日後とかになるの知ってるんですよ？」

提督「何故それを…」

潮「提督からの声は聞こえますから。ほら、早く終わらせちゃいましょう」

提督（今度から下手なこと言わないようにしよう）

潮「提督、このお皿はどこですか？」

提督「それはえーと…その辺」ジャー

潮「その辺ってどこですか。ちゃんと説明してください」

提督「ううむ…テキストに置いてくれ」フキフキ

潮「はあ…わかりました。空いてるところに置いときます」

提督「…なあ潮」キュツ

潮「はい？」

提督「お前って例外だよな？」

潮「は？」

提督「いやだつて『潮』っていったらもつとこう…オドオドしてて、引っ込み思案なイメージがあるからさ」

提督「お前って結構サバサバした感じだから、もしかしたら例外個体なのかと思つてさ」

潮「ああ…。別に例外って訳では無いですよ。元々私もそういう性格でした」

潮「でも色々な人と過ごすにつれて、気づいたらこんな性格になってましたね」

提督「へえ……やっぱり艦娘でも環境によって変わるもんなんだな」

潮「そりゃあ私達だって心がありますから。まあ提督の言ってるような最初から例外の娘もいますけどね」

提督「やっぱりいるんだ」

潮「ええ。外見的特徴から内面的特徴まで」

提督「例えば？」

潮「他鎮守府から聞いた話ですけど、最初から改二として作られた山城さんとか」

提督「……聞き覚えのある話だな」

潮「あとは外見は鹿島さんだけど中身はろーちゃんとかですね」

提督「なんか運営のミスばっかりだな」

潮「あつ、ウチの朝潮ちゃんも例外でした」

提督「マジで？どんな感じなの？」

潮「……聞きたいですか？」

提督「それ絶対俺が凹むやつやん。でも聞く！」

潮「わかりました。……警告はしましたよ」

提督（どうせ不真面目とかエロいとかそんなんだろ）

潮「ウチの朝潮ちゃんは……『司令官が嫌い』という例外です」

提督「」

潮「提督？聞こえましたか？ウチの朝潮ちゃんは…」

提督「いや、うん、聞こえてたよ。ただちよつと驚いただけ…うん…」

潮「…まあ、何も言わないでおきます。…片付け、再開しましょう」

提督「そうだな…」

提督「あ、そうだ。潮風呂入っちゃえよ」

潮「あつ…えーとその…」

提督「どした？」

潮（お風呂も向こうで済ましちやっただよね…あ、いいこと考えた）ピコーン

潮「…一緒に入ります？」モジモジ

提督「なつ…！ば、馬鹿なこと言うなよ！」

潮「…潮は、いいですよ？」チラッ

提督「ぐっ……………」

提督（どうする!?!どうする俺!?!）

提督（……………よし、）

提督「ぜひ、お願いします…」ペコリ

潮「うふっ。じゃあ先にお風呂で待っててください。後から行きますので」

提督「わかりました…」（我ながら決断早いな…）

—風呂—

提督「なんだこの状況？なんだこの状況！？なんだこの状況—！！」ウオー！

提督「ふー…ふー…落ちて俺…ただ一緒に風呂に入るだけだ…」

提督「ただ…一緒に…」ホワンホワンホワン

潮『提督…コ コ、洗ってくれませんか…？』

潮『きやつ…もう…体洗うだけじゃなかったんですか？』

潮『もう、しょうがない人ですね…。潮が鎮めてあげますね…』

提督「Fooooooooo!!!」ブンブン

提督「やつべえ興奮がおさまらねえ!!」ドキドキ

潮『提督—？入りますよ—？』

提督「お、おう！」ドキドキ

潮「失礼しま—す…」ガチャ

提督「よ、よく来たなうし…お…」

潮「…？どうしました？」 ↑水着mode

提督「…：うん、知ってた。知ってたさ…一縷の望みをかけた俺が馬鹿だったんだ…」

潮「バスタオル一枚で来ると思ってたんですか？アホですね」

提督「ぐっ！」グサツ

潮「そんな夢みたいな話、あるわけないでしょう、童提督」

提督「何も言えねえ…」ガツクリ

潮「大体、ここR18板じゃないんですから、そんなこと起こらないでしょ」

提督「ごもつとも…」

潮「まったく…ほら頭洗ってあげますから、じつとしてください」

提督「はい…」

潮「く〜♪く〜♪」ゴシゴシ

提督（ご機嫌だな…）

潮「痒いところないですかー？」シヤカシヤカ

提督「…つむじのあたりを頼む」

潮「そうですね。じゃあ流しますねー」

提督「なんで聞いたんだよ」

潮「あつつ…あつつ…熱くないですかー？」バシャー

提督「あつついわあぁあ!!あつつ!!」

提督「なんでお前熱湯ぶっかけてんだよ！」

潮「熱湯かけてほしそうな顔してたんで」

提督「んなわけあるか！んでこれ全然泡立ってないんだけど…」

潮「あ、それリンスしか使ってないです」

提督「なんでリンスだけなんだよ!?シャンプーも使えシャンプーも!!」

潮「薄毛には効果抜群なんですよー！」

提督「誰がハゲだよ!?まだ平気だわ!!」

提督「はあつ…はあつ…まんまサンドウィッチマンじゃねえか…」

潮「あ、バレました？」

提督「いやまあ…途中で気づいてたけどさ…なんでこれやったんだよ…」

潮「やってみたかったです！」キラキラ

提督「そう…」

潮「そんなことより提督、早く椅子に戻ってください。次は背中洗いますから」

提督「はあ…」

潮「…提督」ゴシ…ゴシ…

提督「うん？」

潮「いつも…ありがとうございます…」ゴシ…ゴシ…

提督「…急にどうした？」

潮「いえ…。そういえば、ちゃんとお礼言つてなかったなと思つて…」ゴシ…ゴシ…

提督「…別に。お礼言われることじゃねえよ」

提督「俺はただゲームしてるだけ。それ以上でも以下でもない」

潮「それでも…ですよ。私たちにとっては、感謝すべきことなんですよ」ゴシ…ゴシ…

…

提督「そうか…」

潮「はい。だから、黙つて感謝されてください」ゴシ…ゴシ…

提督「はいはい…」

潮「…いつも、潮たちを心配してくれてありがとうございます」

潮「貴方の励ましが、私たちの力になります…」

潮「力及ばないこともあるかもしれませんが、これからも末永くよろしく願ひしま

す…」

提督「ああ…。期待してるよ」

潮「もちろん！それじゃ、流します…ね…」

提督「おう」

潮（提督の背中…初めて見たけど…大きくて逞しい…）ジー

提督「……」

潮（……………）

提督「…？潮どうし……」

潮「…^{えいっ}ギユツ

提督「^{???}」

潮「さ！さあ！流しますから動かないでください！」パツ

提督「潮お前……」

潮「わー！わー！わー！何でもありません！座っててください！」

提督「……つたく…」（やわらけえー!!!）

潮「……／／／／」ジャー

提督・潮「ふー…」チャポン

提督「あ、そういやお前は体洗わなくてよかったのか？」

潮「実は…むこうでお風呂もすませてきちやっただです」

提督「そうだったか。…なあ潮」

潮「はい？」

提督「お前、いつ戻っちゃうんだ？」

潮「さあ…。戻り方も分かりませんし…」

提督「分かんねえの!？」

潮「勢いで来ましたから。まあ何とかありますよ」

提督「はあー…」

潮「いやー助かりますよ提督」ホワホワ

提督「不備があったら言ってくれ。人の髪乾かすのなんて初めてだからな」ブオー

潮「はい。あ、つむじの当たり搔いてもらえますか」

提督「ういうい。…あ、そうだ潮」ブオー

潮「なんですかー？」

提督「明日お前の服買いに行くからな」ブオー

潮「それって提督の奢りですかー？」

提督「勘弁してくれ。大学生の一人暮らしにや荷が重い」カチツ

潮「冗談ですよ。それぐらいは潮が出しますから」

提督「助かるけど男として不甲斐ないな……髪、梳くぞ」

潮「はい。…じゃあやめときますか？」

提督「すみません、自腹で…」スツスツ

潮「ふふっ。はい」

提督「……よし。終了」

潮「提督、ありがとうございます。助かりました」

提督「気にすんな。…少し早いが今日はもう寝るか」

潮「そうですね」

提督「……で、だ」

潮「はい」

提督「自然に一緒に寝たな」ウデマクラ

潮「何か文句でも？」ホッペプニツ

提督「いや別に。ただ、全く抵抗なく入ってきたからさ」

潮「そりゃ夫婦ですもの。抵抗なんてありませんよ」

提督「『夫婦』…ね。納得した」

潮「でも、意外でした」

提督「うん？」

潮「その…提督が狼になるんじゃないかと思ってて」

提督「あー…」

潮「正直、そういう覚悟はしてました。私の知ってる提督ならそうなると思ってましたし」

提督「失礼なやつだな」

潮「でも事実でしょう？」

提督「まあな」

潮「…：襲つてもいいんですよ？」

提督「…：遠慮しとく」

潮「…：興奮してないんですか？」

提督「そういう気持ちも確かにある」

提督「が、そんな気持ちよりお前と一緒にいれるっていう安心感？嬉しさ？の方が勝つて行動を起こす気にならねえや」

潮「そうでしたか…。てつきり私に魅力がないものかと」

提督「んなわけあるか。大体、魅力がなかったらケツコンしてねーよ」

潮「ところで提督明日の予定ですが」

提督「オイ、俺の渾身の一撃オイ」

潮「いや、ちよつとあまりにクサかったのでスルーするのがお約束かと」

提督「はあー……んで？明日の予定がなんだって？」

潮「あ、はい。お洋服買ったならそれで終わりなのかなって」

提督「あー……確かにそれだけじゃ一日潰せねーな」

潮「いや、わざわざ外出で一日使わなくてもいいでしょう」

提督「いやいや、外に出るんだったら朝早く出て夜遅くに帰ってこねーと」

潮「なんでですか？」

提督「んー……なんかヤダ」

潮「ええ……」

提督「あ、そうだ。ウチの兄貴に会わせるよ」

潮「提督のお兄さんですか？」

提督「おう。同じ提督だし、何か力になってくれるかも」

潮「そうですか……ということは、明日は午前買い物、午後にお兄さんの所に行く、つ

て感じですか」

提督「そんな感じですか」

潮「わかりました。聞きたかったのはそれだけです」

提督「ん、そうか。んじゃ明日も早いしきつさと寝よーぜ」

潮「そうですね」

カチツ カチツ

おやすみ おやすみなさい

—翌日—

提督…起きてください…

提督「んー…」ゴロン

提督…提督…

提督「誰だー…？俺をk/h@*↓…」

潮「何わけのわからない事言ってるんですか！もう朝ですよ！」ユサユサ

提督「んー…？」ポー

潮「やっと起きましたか。朝ご飯は…」

提督「潮だー」ギュー

潮「ひやつ!?!ちよつと!?!」

提督「なんだよー…夢の中なのに抵抗するなよー…」

潮「まだ寝ぼけて……きやつ！そこは……！」ムニツ

提督「ウヘヘヘヘ」ニター

潮「いい加減に……」—— 艦 装 展 開 ——

潮「しなさーい!!!」ドゴォ!!

提督「うぼあはっ!?!」

潮「……」パクパク

提督「なあ潮……」

潮「……なんですか?」

提督「寝ぼけてたのは悪かったって。このとおり。だから機嫌直してくれよ、な?」

潮「別に怒ってないです」ツン

提督「はあ……じゃあ今度スイーツバイキング連れてくから。それで勘弁してくれ」

潮「……今回だけですよ」

提督「ありがとう」(チョロいな)

提督「よし、飯食い終わったしぼちぼち行くか」

潮「了解です」

提督「物珍しいからってすぐ離れるなよ？」ガチャ

潮「子供じゃないんですから平気ですよ」

—シヨツピングモール—

提督「いやーたくさん買ったな」

潮「そうですか？普通だと思えますけど…」

提督「これで普通なのか…やはり女の子の買い物は計り知れんな」

潮「何を言ってる…あ」ピタッ

提督「ん？どした？」

潮「下着買うの忘れてました…」

提督「ん、そうか。じゃさっさと買いに行こうぜ」

潮「そうですね…って何当たり前のようについてきてるんですか。そこで待っていてください」

提督「ちっ…了解」スタスタ

潮「まったく…」

提督「行けると思ったんだがなあ…」ストン

提督「…つと、兄貴に電話しとかねえと」ピッ

提督「……………」プルルルルル

提督「……………」プルルルルル

提督「……………出ねえ」プルルルルル

携帯『ガチャ

提督「おっ」

携帯『おかけになった電話番号は…………』

提督「……………知ってた」ハア

潮「お待たせしました提督。…誰かと電話してました？」

提督「おう、兄貴にかけてた」

潮「なるほど。OK出たんですか？」

提督「そもそも電話に出なかった。まああいつはそういうところあるから気にしないけど」

潮「そうですか…。あ、じゃあ時間も時間ですし、お昼食べませんか？」

提督 「ん、そうだな。フードコートに行くか」

潮 「はい！」

ーフードコートー

潮 「うわあ……こんなにお店があるんですね……」

提督 「向こうにはショッピングモールとかなかったのか？」

潮 「ありましたよ。ただ、私達の鎮守府は前線でしたから、アクセスが大変で行ったことある人は少なかったですね」

提督 「へえ……そういうやトラックとラバウルは南の方だもんな」

潮 「ええ。だからこんなにお店があるのを見て、なんだか新鮮な気持ちです！」

提督 「そりや良かった。んで？何食べる？」

潮 「んー……どれもいいですけど、お昼はやっぱりガッツリいきたいです！」

提督 「了解。んじやステーキにすつか」

潮 「いいですね！それでいきましよう！」

提督（ウキウキしてるなあ）

潮 「んー♪美味しい！」モグモグ

提督「やはりフードコートといえはペッパランチ」モグモグ

提督（いい加減伏字を覚える？うるせえわざとだ）

潮「奢ってもらっちゃってすみません提督」

提督「気にすんな、昼飯ぐらいなら俺の財布でもなんとかなる。…にしても意外だな」

潮「何がですか？」モグモグ

提督「いや、女の子だったら普通小食だからさ。いくら艦娘でもここまでガッツリ『肉！』って感じだとさ」

潮「だってお腹減ってたんですもん。女の子らしくなくて悪かったですね」フン

提督「いやいや、潮は潮だろ。好きに食べればいい。寧ろ飾らない姿を見せてくれて嬉しいよ」

潮「くッ！もう！ほら早く食べないと冷めちやいますよ！」

提督「あはは。照れてる照れてる」ケラケラ

潮「照れてません！もう、知りません！」プイッ

— 兄督の家 —

提督「さて、着いたぞ」

潮「ここが提督のお兄さんの家、ですか」

提督「うん。車はあるし…いるよな」ピンポーン

扉「……………」

提督「…………出ねえな」ピンポーン

潮「近くに出かけてるとか?」

提督「んなことはねえと思う…」ピンポーン

兄督『??!ちよつと対応頼むー!』

??『はい!』

潮「いましたね」

提督「な。…ていうか兄貴彼女できたんだ」

潮（……………今の声、どこかで…）ハテ

??『今開けますね!よいしょ』カチツ バタン

??「すみません遅れてしまつて…どちら様でしょう?」

提督「あ、初めまして。私、兄督の弟の提督と申しま…………え?」

潮「え…………?」

翔鶴「ど、どうかされました…?」

潮「しょ、翔鶴さん!」

翔鶴「どうして私の名前を…つて潮ちゃん!」

兄督「翔鶴―？どうした―？」

翔鶴「そ、それが…」

提督「おいまじか兄貴！」ドタドタ

兄督「何が…つてお前また来…え…？」

潮「ど、どうも…」ペコッ

兄督「…状況は概ね分かった。とりあえず上がれ二人とも」

翔鶴「どうぞ」コトツ

提督「あ、どうも…」

兄督「…さて、まずは確認したいことがある」

兄督「君は駆逐艦『潮』で間違いないか？」

潮「は、はい」

兄督「そうか。じゃあ次、このことをほかの誰かに話したか？」

提督「いんや。父さんと母さんにも話してないな」

兄督「わかった」

提督「じゃあ次はこっちから質問するぜ」

提督「貴女は翔鶴型航空母艦一番艦『翔鶴』で間違いないですか？」

翔鶴「ええ。と言つても貴方の所の翔鶴とは違いますが」

提督「わかりました…。もうめんどいからくだけた話し方でいい？」

兄督「おう」

提督「翔鶴…:さんはいつからこっちへ？」

翔鶴「一ヶ月ほど前でしようか？」

兄督「そうだな。もうそんなになるか」

提督「い、一ヶ月も前から!？」

兄督「ああ。そういうお前は？」

潮「潮は…:つい昨日です…:」

提督「いつも通り艦これやり始めたら突然パソコンが光つて…:って感じ」

兄督「ふむ…:その辺は俺も同じだな」

潮「で、帰り方が分からなくて今困つてて…:」

翔鶴「ああ、それなら簡単よ」

潮「え？戻り方知ってるんですか？」

翔鶴「潮ちゃんの場合に当てはまるかは分からないけど…:ね」

提督「…出来れば教えてくれませんか？」

翔鶴「ふふつ。そんなに畏まらなくても大丈夫よ弟くん。敬語なんて使わなくていいわ」

提督「あ、はい…じゃなくて、うん」

翔鶴「うん、大丈夫ね。それで戻る方法だけど…」

翔鶴「私達の世界を開いて、凶鑑の中の私達がいる場所を開くの」

翔鶴「したら、そこが空欄になってるから、艦娘がボタンを押せばOKよ」

提督・潮（な、なんかわかりづらい…）

翔鶴「…どうしたの？」

兄督「翔鶴、俺が説明するよ」

翔鶴「そうですか…？」

兄督「あー…現実の俺らの言葉で言うと、艦これを開いて『凶鑑』にいくと該当艦娘…お前の場合は潮が欠番になってる。そこを潮自身が押せばOK」

潮「なるほど…」

提督「またこつちには戻れるのか？」

翔鶴「ええ。来る時と同じ方法でいけるわ」

提督「よかった…」ホッ

兄督「いやー、しかしまさかお前のところにも嫁が来たとはな」

提督「それはこっちのセリフだよ…」

潮「あの…翔鶴さん、他にも聞きたいことあるのですが…いいですか？」

翔鶴「もちろん。なにかしら？」

提督「つと、もうこんな時間か」

兄督「晩飯食つてくか？翔鶴の料理は美味いぞ〜」

翔鶴「もう、提督ったら〜！」

提督「あはは…：…まあ、申し訳ないけど今日はもう帰るよ。潮も疲れて寝ちゃったし」
チラッ

潮「すー…すー…」

兄督「そうか。またなんかあつたら来いよ」

提督「うん」

提督「義姉さんも、今日は本当にありがとう」

翔鶴「いいのよ。私も義弟と旧友の顔が見れて嬉しかったし」

提督「そう言ってもらえるとありがたい。んじゃ、またね」

兄督「おう」

翔鶴「気をつけてね」

潮『こ、ここが私が所属する鎮守府かあ…』

五月雨『貴女が潮ちゃん…ですか？』

潮『は、はい…。秘書艦の五月雨さんですよね…？』

五月雨『はい！これからよろしくお願いしますね！あ、私のことは五月雨で大丈夫ですよ！』

潮『わ、わかりました五月雨…ちゃん』

五月雨『ふふっ。…さて、提督がお待ちしてますし、早速執務室に行きましょう！』

潮『は、はい！』

潮『あのー…五月雨ちゃん？』

五月雨 『なんですか?』

潮 『この提督ってどんな方なんですか…?』

五月雨 『うーん…優しい方ですよ!ただ…』

潮 『ただ…?』

五月雨 『かなり変わった方ですね!』

潮 『そ、そうですか…』

五月雨 『おっと、着きましたね。提督ー!入りますよー!』 コンコン ガチャ

提督 『さてさて wiki によると特型らしいが…』

潮 『特型駆逐艦…綾波型の「潮」です。…もう下がってよろしいでしょうか…?』

提督 『キターーー!!FOOOOOOO!!』 ブンブン

潮 『え、えっと…』 オロオロ

五月雨 『ごめんね潮ちゃん。提督、ずっと貴女を探してたんです』

潮 『そ、そうなの…?』

五月雨 『うん。建造を沢山したり、鎮守府海域を何回もまわったりして貴女を探した

の』

五月雨 『だから、今は喜ばせてあげてください』

潮 『う、うん』

提督『FOOOOOOO!!あ、そうだ!』ドタドタドタ

潮『:提督っていつもこんななんですか?』アニキーウシオアタッター!

五月雨『まあ:そうですね。でも、指揮はしっかりしているのでそこは安心してください
い』オウヨカツタナ

潮『そ、そうですか:』

うしお:うしお:~

潮「んっ:~?」パチ

提督「潮起きろー。家着いたぞー」ユサユサ

潮「んー:~:~:~はっ!あ、あれ?」

提督「どした?」

潮「私:~:~寝ちやつてたんですか?」

提督「おう。ぐっすりな」

潮「そうでしたか:~:~それはご迷惑を:~」

提督「いいって。寝顔が見れたぶん役得だ」

潮「もう:~:~ばか:~」ポッ

提督「ぐはっ」キュン

潮「ど、どうしました？」

提督「いや、なんでもない大丈夫だ」

提督（なんだ今のは…）

提督「……潮」

潮「はい？」

提督「好きだ」

潮「は、き、急になんですか!？」アタフタ

提督「いやなに、惚れ直したから言ったただだよ」

潮「も、もおー／／」ヒュッ

提督「はうっ」ドゴォ

提督「……」パチ

提督「知ってる天井だ……じゃねえよ！」ガバツ

潮「あ、提督起きました？」

提督「ああ……」

潮「突然気を失っちゃったから驚きましたよ」カチャカチャ

提督「お前が頭思いつきり叩いたからだろうが……」

潮「あれで気を失ってたんですか……軽く叩いたつもりだったんですが」コポポ

提督「感情が昂ると自然と艦娘の力を使うのかもな」

潮「そうかもしれないね。はい、お茶どうぞ」

提督「さんきゅ。……ふう。そういえば今何時だ？」

潮「19:00ですね。そろそろ晩御飯にします？」

提督「そうするか。んじやお湯を沸かして……」

潮「提督？」ジト

提督「……冗談だよ。そいじゃ今日は俺が作ろうかな」

潮「……大丈夫ですか？」

提督「食えるもんは作るさ。見栄えは……まあ期待しないでくれ」

提督「できたぞー」

潮「はーい……意外とまとものが出てきましたね」

提督「お前失礼過ぎない？俺、仮にも上官だよ？」

潮「ちゃんと敬ってはいますよ。思ったことをそのまま言ってるだけです」

提督「言動じゃなくて見る目が……まあいい。そんじや早速」パシツ

提督・潮「いただきます」

潮・提督「ゴ馳走様でした」

提督「よし、片付け開始だ」

潮「はい！」

潮「提督、後であの卵焼きの作り方教えてくれませんか？」ジャー

提督「お、気に入ってくれたか？」フキフキ

潮「ええ。甘さがちょうど良くて、卵もふんわりしてて美味しかったです」ゴシゴシ

提督「そりやよかった。：そうだなあ、機会があつたらな」カチャ

潮「楽しみにしてますね」キュツ

提督「おう」

提督 「さーて片付け終わり。艦これするぞー！」

潮 「あ、そうだ提督」

提督 「おん？」

潮 「昼間の実験もかねて、私一度元の場所に帰りますね」

提督 「あー…わかった。んじや準備するか」

潮 「はい！」

提督 「えーと艦これ開いて…」

PC へか・ん・こ・れ♡

潮 「こんな感じなんです…」

提督 「変な感覚だよな。別の世界から自分のいた場所を見るのって」

潮 「そうですね…」

大鷹 『改装航空母艦大鷹です。戦力として、艦隊のお役に立てるよう、日々努めます』

潮 「あ、大鷹さん！」

提督 「二番艦にセットしてたから繰り上げで旗艦になったのか」

提督「そいで……凶鑑つと」カチツ

提督「あ、ホントだ。枠はあるけどグラもないしボイスも流れない」

潮「えーと……ここからやるんでしたよね」

提督「ああ」

潮「じゃあ、その前に別れの挨拶を」

提督「別に今生の別れになるわけじゃないんだからいいだろ」

潮「それでも、ですよ」

潮「…提督、今回は本当にお世話になりました。貴方に会うことが出来てとても嬉しかったです」

提督「こつちこそ」

潮「帰ったら、みんなに提督の話聞かせてあげようと思います」

提督「頼んだぞ」

潮「不甲斐ないかもしれませんが、これからもよろしくお願いしますね」ペコリ

提督「当たり前だ」

潮「…それじゃ、帰りますね」

提督「おう、気をつけてな」

潮「はい。あ…最後に」スッ

提督「お、なんだ？」

チュツ

提督「!?」

潮「……それじゃ、また！」

提督「あ、お、おい！」

カチツ

PCへピカーツ　ガタガタ

シーン…

提督「……まったく、何回惚れ直させりや気が済むんだよアイツは…」

—その夜—

提督「………」　グー…グー…

PCへピカーツ

—??・??室—

提督「うーん……」パチ

提督「んー……うん?」

提督（……なんだろう……ものすごい違和感だ）

提督「ベッドが高いような……ベッド?」

バツ

提督「どこだここ……」

提督（俺は確かに部屋で寝たはずだ。なのに別の場所にいる……）

提督「にしても殺風景な部屋だな……ベッドとパソコン以外何も無い」

提督「くんくん……海の匂い……港の近くか?」

提督「……とりあえず外に出てみるか」

ガチャ

提督「……外だと思ったら部屋だった」

?? 「失礼します……って言っても誰もいませんが……」ガチャ

提督「え……?」

?? 「!?だ、誰!? って……へ?」

提督「た、大鷹!?」

大鷹「提督!」

— 母港・執務室 —

続く……？